VANTELIN TEAM TOM'S

2019 全日本スーパーフォーミュラ選手権　第 2 戦
オートポリス
2019 年 5 月 19 日（日）

予選

観客: 6,150 人　　天候: 雨

全日本スーパーフォーミュラ選手権第 2 戦は、九州のオートポリスに舞台を移し開催された。走行スケジュールは、17日（金）のフリー走行から始まった。そのセッションはドライコンディションで行われたが、18 日（土）の予選日は、雨のウエットコンディション。雨量が多く、走行が危険と判断された為、予選セッションは行われず、19 日（日）の朝に予選を行うスケジュールに変更された。通常 Q1 から Q3 を行うが、その予選システムも変更され、40 分間の 1 セッションで決勝のスターティンググリッドを決定することとなった。

19 日（日）は、早朝から雨が降り続き、コースコンディションはウエット。午前 8 時 45 分から開始された予選は、コースオフするマシンが続出し、セッションは、3回も中断される中でのタイムアタックとなった。セッションが始まると、中断が繰り返され、連続して 2 周走行するのが難しい状況下で、中嶋一貴が 4 番手。ニック・キャシディが 11 番手となった。

●断続的に強まる雨と風で、マシンをコース上に留めタイムアタックとするという、非常に厳しい予選。
●セッション開始、再開とともに、即コースインして1周目にタイヤをウォームアップ、2周目からアタックをかけるべく、中嶋はできるだけ早めにピットロードへ出て、コースイン。なんとか2周を周回することができ、タイムアップすることができた。
●キャシディは、2周目のアタックラップでクリアラップを取ることができず、タイムアップならず。開幕戦のウィナーがグリッドの中程から決勝をスタートすることとなった。

Drivers	Car No.	Q1
中嶋　一貴	36	P4　1'49.331
ニック・キャシディ	37	P10　1'51.359

天候	雨/ウエット	
気温/路面温度	気温：17-17°C	路面: 17-17°C

VANTELIN TEAM TOM'S

中嶋　一貴 36 号車ドライバー

「天候が悪く、予選は混乱することが予想されましたから、セッションが再開される前にピットロードに出て、できるだけ早くコースインすることが、多く周回できる方法でした。そして、なんとか2周目をクリアできればタイムアップすることができる唯一の方法でした。決勝は、どのようなコンディションになるか分かりませんが2列目のグリッドからは、十分に優勝を狙える位置なので、初戦の不運を挽回したいですね」

ニック・キャシディ 37 号車ドライバー

「1周たりとも、まともな走行が出来ませんでした。さあ、これからタイムアップしようとする度に、セッションが中断されてしまいました。連続2周を走行できたドライバーだけが、グリッドの上位を得られただけの話ですね」

東條　力 36 号車エンジニア

「本来の予選方式ではなくて、ワンセッションでの予選でしたから、タイヤを温めることもできずに、赤旗中断が連続してしまうというドタバタな予選でした。そんな中で、なんとか一貴選手がタイムをひねり出してくれました。2周目の走行をできるかどうかで、グリッドの決まったという予選でした」

VANTELIN TEAM TOM'S

小枝　正樹 37 号車エンジニア

「ニックを送り出すタイミングが遅れたせいもありますが、あれだけセッションが中断されては、タイム出すことはできませんでしたね。2列目以降のドライバー達は、一切アタックできなかったでしょう。うちも10番手がやっとですから、周りのグリッドのドライバーも同じような状況だったでしょう」

舘　信秀 チーム監督

「ワンデーで予選と決勝を行うこととなった慌ただしい第2戦でした。今シーズンは、日本のサーキットに不慣れな外国人ドライバーが多く参入しているので、混乱が起きるのだと思います。まともに連続した周回ができず、これまでとは異なる顔ぶれがグリッド上位に来ていますね。その中で、一貴が4番手というのは良かったです。ニックがアタックできず、運がなかったです。今回の予選は「運」が重要なファクターでした。決勝のコンディションは、わからないですがチームとして2連勝を飾りたいです」

VANTELIN TEAM TOM'S

2019 全日本スーパーフォーミュラ選手権　第 2 戦
オートポリス
2019 年 5 月 19 日（日）

決勝

観客:6,150 人　　天候: 曇り

午後 2 時の決勝スタートに向けて天候は好転。コースの一部で濡れた部分が残るものの、各車は、ドライ路面用のスリックタイヤを装着し決勝レースに臨んだ。中嶋一貴は、ポジションをキープして 1 周目を終了。ニック・キャシディは、スタートでポジションを落としたが、1周終了時に義務のピットインを処理したマシンがいて、9 番手で通過。2 周目に 1 台がコースオフしてセーフティカーがコースイン。このタイミングで大半のマシンがピットイン。中嶋もキャシディもピットインし、再び戦列に復帰した。レースが再開されてから、中嶋は順調にポジションアップ。しかし、一度オーバーランをしてしまい順位を落としてしまう。キャシディは、周回を重ねる毎にポジションを上げ、終盤にポイント圏内に突入、8 位フィニッシュで 1 ポイントを獲得。中嶋は、13 位で第 2 戦を終えた。

●中嶋一貴、ニック・キャシディ共に、ミディアムコンパウンドのスリックタイヤを装着して決勝をスタート。
●2 周目にセーフティカーが導入されたので、2 台共にピットインをした。
●中嶋はタイヤをソフトに交換、最小限の給油を行ないコース復帰。キャシディは、タイヤ交換だけを行なった。
●順位が上の中嶋のピット作業が優先されて、キャシディのピットストップは中嶋よりも長めになってしまった。
●セーフティカーラン中、ピットインせずにステイアウトしたマシンが 3 台いて、そのマシンがトップ 3 を形成。その後にピットインを済ませたマシンが連なって、中嶋は 9 番手、キャシディは 16 番手に位置した。
●8 周目からレース再開。
●中嶋は、一端 10 位に後退した後、9 位に順位を戻した。そして、レース中盤の 28 周目に順位アップを仕掛けた第2ヘアピンでオーバーランをしてしまった。
●キャシディは、常に集団の中で走行を続けて、その中でポジションアップ。レース終盤に自己ベストタイムを連発、9 位まで上がり、残り 2 周で 8 位となってチェッカー。
●順位を落としてしまった中嶋は、前車の背後でダウンフォースが少なくなる苦しい展開を強いられながら 13 位でレースを終えた。

VANTELIN TEAM TOM'S

Drivers	Car No	Race / Fastest
中嶋　一貴	36	P13　1:31.731
ニック・キャシディ	37	P8　1:31.813

天候	曇り/ハーフウエット-ドライ	
気温/路面温度	気温　20-20°C	路面温度 21- 24°C

中嶋　一貴 36 号車ドライバー

「決勝におけるマシンの状態も良くて、ピットインの作戦、作業も全く問題なかった。しかし、再びコースインした後は、自分よりペースの遅いマシンが何台もいてフラストレーションが溜まる展開でした。そして、順位アップをしようと思って仕掛けたら、オーバーランしてしまいました」

ニック・キャシディ 37 号車ドライバー

「マシンの状態もピット作業も問題なかったです。コースに復帰してからは、常に前にマシンが居る展開だったので、一台一台パスして行くしかなかったです。そして、終盤になってもペースは落ちなかったし、逆にペースダウンして来るマシンがいて 8 位でフィニッシュできました。第2戦を終えただけでランキングの話はまだ早いけれど、これからも一戦毎に着実にポイントゲットした行きたいです」

VANTELIN TEAM TOM'S

東條　力 36 号車エンジニア

「レース途中までの展開は、予定どおりでした。しかし、集団の中ではペースを上げられず、一貴選手も苦しい走行を強いられてしまいました。オートポリスは、エンジニアリング的にも得意なサーキットだっただけに、ポイントをゲット出来ず残念でした」

小枝　正樹 37 号車エンジニア

「当初から２周してピットインする作戦だったのですが、セーフティーカー導入のタイミングと重なってしまいました。順位が上の一貴選手が先にピットインしているので、タイムロスは、仕方ありませんでした。その後はニックが頑張って順位を上げてくれました。今後のポイント争いでは、今回の１ポイントが重みのある 1 点となるかも知れませんね」

舘　信秀 チーム監督

「優勝した関口雄飛選手は、スーパーGT では、ウチで走ってくれているドライバーです。素晴らしいドライブで得た勝利でしたね。おめでとうございます。作戦もさることながら、ステイアウトして大きなギャップを築いた。凄いの一言です。しかし、我がチームには、同じ作戦をとるチョイスが無かったですね。開幕戦では、他のチームがとらなかった作戦で優勝させていただいたが、今回はインパルチームの作戦に負けました。監督として反省しきりの第 2 戦でした」